

幼児教育の評価に関する資料

幼稚園教育要領及び解説等における評価に関する規定の変遷

	幼稚園教育要領	幼稚園教育要領解説等
昭和三十一年	<p>第三章 指導計画の作成とその運営</p> <p>3 指導計画の改善</p> <p>教育の理論や実際は、かぎりなく進歩する。かつ個々の教師についても、年々、進歩向上がみられるはずである。したがって指導計画も、常に進歩改善されなければならない。指導計画の改善上、特に注意しなければならないことは、次の諸点である。</p> <p>2 指導計画を実践した結果は、必ず、幼児ひとりびとりの成長に現われる。この成長の経過は、<u>幼児指導要録に記入される。この記入を契機として、平素の指導について強く反省させられる。したがって、指導要録は、単に個々の幼児の進歩の過程を記録して指導に役だてるばかりでなく、同時に、指導計画の改善にも、大いに関係をもつ資料となる。</u></p>	
昭和三十九年	<p>第3章 指導および指導計画作成上の留意事項</p> <p>一 指導上の一般的留意事項</p> <p>(十二) <u>指導の過程や成果については、たえず反省や評価を適切に行ない、その改善に努めること。</u></p>	<p>第5章 指導および指導計画作成上の留意事項</p> <p>第1節 指導上の留意事項</p> <p>(8) <u>指導の過程や成果の反省、評価</u></p> <p>指導を効果的に行うには、常にその指導の過程や成果について反省、評価し、それに基づいて指導の計画や方法を改善していく必要がある。</p> <p>指導の過程や成果を適切に反省、評価するには、<u>幼児が経験や活動をしていく過程にそって、その要点をとらえて行なう必要がある。一般に、幼児が経験や活動をするときは、経験や活動に対して強い興味や欲求をもち、活発に活動し、その活動の過程や結果において、いろいろ望ましい成果を身につける。そしてその成果を次の活動に生かして、さらに高い程度の経験や活動をしていく。ゆえに、指導の過程や成果の反省、評価の要点として、たとえば、</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導計画に基づいて行なう経験や活動に、幼児が強い興味や関心をもち、活動への意欲を盛り上げたか。 ・ 経験や活動が活発に楽しく進められるように導いたか。 ・ 助力や助言が適切に加えられたか。 ・ 経験や活動によって得られた成果を、いっそう確かなものにする適切な配慮やくふうがなされたか。などがあげられよう。 <p>反省、評価にあたっては、何について反省、評価をするかを明確にすることがたいせつである。一般に反省、評価は、<u>指導と幼児の経験や活動の結果とが対象となる。そして指導は、指導計画と指導の方法とに分けられよう。また、たとえば、ねらいは明確で適切であったか、ねらいが効果的に達せられたかなどの評価の観点をきめて、それについて行なうのが普通である。</u></p>

幼稚園教育要領及び解説等における評価に関する規定の変遷

	<p>反省、評価するにあたって留意することは、おおよそ次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>できるだけ客観的に行なうようにする。特に幼児の心身の発達についての評価は、このことがたいせつである。幼児の心身の発達の評価は、指導しながら主として観察法によって行なわれることが多いので、ややもすれば客観性を失いがちである。また、指導についても、教師自身が評価するので主観に流れやすい傾向が多い。</u> ・ <u>いろいろな観点から、いろいろな方法を用いて評価する。</u> ・ <u>累積的に評価する。</u> ・ <u>評価のしかたや評価結果の処理を適切にする。評価は重点的に手ぎわよくやる必要があるので、その方法をじゅうぶん考えておく必要がある。また、その結果はそのつど記録しておくなどして適切に処理できるようにしておくことがたいせつである。</u> <p><u>指導と幼児の経験や活動の結果とは、ともに密接な関連をもっている。したがって、指導の過程や成果を反省、評価すればおのずから幼児の経験や活動について反省、評価したことになると言える。また、この結果は幼稚園幼児指導要録の資料ともなる。ゆえに、これらのことをじゅうぶん考慮して、能率的、効果的な反省、評価の方法をくふうして実施する必要がある。</u></p> <p>また、評価結果については正しく解釈し、それに基づいて指導を改善することがたいせつである。そのためには、たえず個々の資料を、全体的にとらえるように注意する必要がある。それは、指導の部分的な効果を反省、評価した結果を寄せ集めても、全体的な指導の効果を知ることはできにくいからである。</p> <p>※幼稚園教育指導書一般編(昭和63年)</p>
<p>平成元年</p> <p>第3章 指導計画作成上の留意事項 1 一般的な留意事項 (7) <u>幼児の実態及び幼児を取り巻く状況の変化などに即して指導の過程についての反省や評価を適切に行い、常に指導計画の改善を図ること。</u></p>	<p>第4章 指導計画 第2節 指導計画の作成 5 評価と指導計画の改善</p> <p>指導計画は、常に指導の過程について実践を通しての反省や評価を行い、改善が図られなければならない。</p> <p><u>この場合の評価は、幼児の発達を理解することと、教師の指導に対するものとの二面を合わせて行うことが大切である。特に幼児の発達の姿は教師の指導に大きく左右されるため、ねらい、内容、環境の構成、教師の直接的な援助が適切なものであったかどうかについて十分に検討し、幼児の発達が望ましい方向に向かって促されるように計画を改善していく必要がある。</u></p> <p>※幼稚園教育指導書(平成元年)</p>

幼稚園教育要領及び解説等における評価に関する規定の変遷

平成
十年

第3章 指導計画作成上の留意事項

1 一般的な留意事項

(2) 指導計画作成に当たっては、次に示すところにより、具体的な

ねらい及び内容を明確に設定し、適切な環境を構成することなど

により活動が選択・展開されるようにすること。

ア 具体的なねらい及び内容は、幼稚園生活における幼児の発

達の過程を見通し、幼児の生活の連続性、季節の変化などを考

慮して、幼児の興味や関心、発達の実情などに応じて設定す

ること。

イ 環境は具体的なねらいを達成するために適切なものとなるよう

に構成し、幼児が自らその環境にかかわることにより様々な活

動を展開しつつ必要な体験を得られるようにすること。その際、
幼児の生活する姿や発想を大切に、常にその環境が適切

なも

のとなるようにすること。

ウ 幼児の行う具体的な活動は、生活の流れの中で様々に変

化するものであることに留意し、幼児が望ましい方向に向かって自

ら活動を展開していくことができるよう必要な援助をすること。

その際、幼児の実態及び幼児を取り巻く状況の変化などに即して指導の過程についての反省や評価を適切に行い、常に指導計画の改善を図ること。

第3章 指導計画

第2節 一般的な留意事項

(5) 反省・評価と指導計画の改善

幼稚園における指導は、幼児理解に基づく指導計画の作成、環境の構成と活動の展開、幼児の活動に沿った必要な援助、反省や評価に基づいた新たな指導計画の作成といった循環の中で行われるものである。指導計画は、このような循環の中に位置し、常に指導の過程について実践を通して反省や評価を行い、改善が図られなければならない。

保育における反省や評価は、このような指導の過程の全体に対して行われるものである。この場合の評価は、幼児の発達の理解と教師の指導の改善という両面から行うことが大切である。幼児理解に関しては、幼児の生活の実態の理解が適切であったかどうか、幼児の発達の理解が適切であったかどうかなどを重視することが大切である。指導に関しては、指導計画で設定した具体的なねらいや内容が適切であったかどうか、環境の構成が適切であったかどうか、幼児の活動に沿って必要な援助が行われたかどうかなどを重視しなければならない。さらに、これらの反省や評価を生かして指導計画を改善していくことは、充実した生活をつくり出す上で重要である。

また、このような反省や評価を自分一人だけで行うことが難しい場合も少なくない。そのような場合には、他の教師などに保育や記録を見てもらい、それに基づいて話し合うことによって、自分一人では気付かなかった幼児の姿や自分の保育の課題などを多角的に評価していくことも必要である。

このようにして、教師一人一人の幼児に対する理解や指導についての考え方を深めることが大切であり、そのためには、互いの指導事例をもち寄り、話し合うなどの園内研修の充実を図ることが必要である。

※幼稚園教育要領解説(平成11年)

幼稚園教育要領及び解説等における評価に関する規定の変遷

平成
二十
年

第3章 指導計画及び教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項

第1 指導計画の作成に当たっての留意事項

1 一般的な留意事項

(2) 指導計画の作成に当たっては、次に示すところにより、具体的なねらい及び内容を明確に設定し、適切な環境を構成することなどにより活動が選択・展開されるようにすること。

ア 具体的なねらい及び内容は、幼稚園生活における幼児の発達の過程を見通し、幼児の生活の連続性、季節の変化などを考慮して、幼児の興味や関心、発達の実情などに応じて設定すること。

イ 環境は、具体的なねらいを達成するために適切なものとなるように構成し、幼児が自らその環境にかかわることにより様々な活動を展開しつつ必要な体験を得られるようにすること。その際、幼児の生活する姿や発想を大切に、常にその環境が適切なものとなるようにすること。

ウ 幼児の行う具体的な活動は、生活の流れの中で様々に変化するものであることに留意し、幼児が望ましい方向に向かって自ら活動を展開していくことができるよう必要な援助をすること。

その際、幼児の実態及び幼児を取り巻く状況の変化などに即して指導の過程についての反省や評価を適切に行い、常に指導計画の改善を図ること。

第3章 指導計画及び教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項
第2節 一般的な留意事項

(5) 反省・評価と指導計画の改善

幼稚園における指導は、幼児理解に基づく指導計画の作成、環境の構成と活動の展開、幼児の活動に沿った必要な援助、反省や評価に基づいた新たな指導計画の作成といった循環の中で行われるものである。指導計画は、このような循環の中に位置し、常に指導の過程について実践を通して反省や評価を行い、改善が図られなければならない。

保育における反省や評価は、このような指導の過程の全体に対して行われるものである。この場合の反省や評価は幼児の発達と教師の指導の改善という両面から行うことが大切である。幼児理解に関しては、幼児の生活の実態や発達の理解が適切であったかどうかなどを重視することが大切である。指導に関しては、指導計画で設定した具体的なねらいや内容が適切であったかどうか、環境の構成が適切であったかどうか、幼児の活動に沿って必要な援助が行われたかどうかなどを重視しなければならない。さらに、これらの反省や評価を生かして指導計画を改善していくことは、充実した生活をつくり出す上で重要である。

また、このような反省や評価を自分一人だけで行うことが難しい場合も少なくない。そのような場合には、他の教師などに保育や記録を見てもらい、それに基づいて話し合うことによって、自分一人では気付かなかった幼児の姿や自分の保育の課題などを多角的に反省や評価していくことも必要である。

このようにして、教師一人一人の幼児に対する理解や指導についての考え方を深めることが大切であり、そのためには、互いの指導事例をもち寄り、話し合うなどの園内研修の充実を図ることが必要である。

※幼稚園教育要領解説(平成20年)

幼稚園幼児指導要録における「指導の記録」の変遷

幼稚園教育要領	通知・通達	指導要録の様式における指導の記録	
昭和39年改訂	昭和40年2月8日「幼稚園幼児指導要録の改訂について」(通知)	<p>評定</p>	<p>・幼稚園教育要領第2章内容に定める各領域に示す事項に照らし、当該幼稚園において編成した教育課程に示す指導のねらいを達成していると認められるもの、おおむね達成していると認められるもの、指導のねらいからみて特に指導を要すると認められるものを3段階で評定。</p>
		<p>指導上参考となる事項</p>	<p>・幼児ひとりひとりを全体的、総合的に観察するとともに、指導のねらいを達成するための指導の過程においてみられる幼児の性格・行動、情緒の傾向、習癖、才能等について、指導上参考となる事実やその経過およびそれについての所見や処置などを具体的に記入。</p>
平成元年改訂	平成2年3月3日「幼稚園幼児指導要録の改訂について」(通知)	<p>発達の状況</p>	<p>・幼稚園教育要領第2章ねらい及び内容に示された各領域のねらいを視点として、1年間の指導の過程を振り返り、その幼児の発達の実情から向上が著しいと思われるものに○印を記入。 ・この欄における発達の状況は、他の幼児との比較や一定の基準に対する達成度についての評定によって捉えるものではないことに留意。</p>
		<p>指導の重点等</p>	<p>・当該幼稚園の教育課程に基づく学年の指導の重点及び1年間の指導の過程において当該幼児の指導について特に重視してきた点を記入。</p>
		<p>指導上参考となる事項</p>	<p>・「ねらい(発達を捉える視点)」及び「指導の重点等」に照らし、幼稚園生活を通して全体的、総合的に捉えた幼児の発達の姿について記入。その際、幼児の発達の姿は、例えば、具体的な興味や関心、遊びの傾向、生活への取り組み方等によって記述することが適当。また、指導に対する反省及び評価等を幼稚園教育の基本に照らして具体的に記入。</p>
平成10年改訂	平成12年3月8日「幼稚園幼児指導要録並びに盲学校、聾学校及び養護学校幼稚部幼児指導要録の改善について」(通知)	<p>ねらいと発達の状況</p>	<p>・幼稚園教育要領第2章ねらい及び内容に示された各領域のねらいを視点として、1年間の指導の過程を振り返り、その幼児の発達の実情から向上が著しいと思われるものを記入。なお、その記入方法については、「○印」を記入する方法のほか、「記述式」とする方法など、各設置者等において創意工夫を図ること。</p>
		<p>指導の重点等</p>	<p>・当該幼稚園の教育課程に基づく学年の指導の重点及び1年間の指導の過程において当該幼児の指導について特に重視してきた点を記入。</p>
		<p>指導上参考となる事項</p>	<p>・幼稚園生活を通して全体的、総合的に捉えた幼児の発達の姿について記入するとともに、次の年度の指導に必要と考えられる配慮事項等について記入。</p>

※上記の記載内容は、通知を踏まえ、本資料用に作成したものである。

幼稚園幼児指導要録における「指導の記録」の変遷

幼稚園教育要領	通知・通達	指導要録の様式における指導の記録	
平成20年改訂	平成21年1月28日「幼稚園幼児指導要録の改善について」(通知)	指導の重点等	<p>(1) 学年の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に、教育課程に基づき長期の見通しとして設定したものを記入。 <hr/> <p>(2) 個人の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一年間を振り返って、当該幼児の指導について特に重視してきた点を記入。
		指導上参考となる事項	<p>① 1年間の指導の過程と幼児の発達の姿について以下の事項を踏まえ記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領第2章「ねらい及び内容」に示された各領域のねらいを視点として、当該幼児の発達の実情から向上が著しいと思われるもの。その際、<u>他の幼児との比較や一定の基準に対する達成度についての評価によって捉えるものではないことに留意すること。</u> ・幼稚園生活を通して全体的、総合的に捉えた幼児の発達の姿。 <p>② 次の年度の指導に必要と考えられる配慮事項等について記入。</p>

※上記の記載内容は、通知を踏まえ、本資料用に作成したものである。

幼稚園幼児指導要録の様式の変遷

○ 昭和40年2月8日 「幼稚園幼児指導要録の改訂について」(通達) | 様式

I 様式(表)

幼稚園幼児指導要録

幼稚園名 および 所在地		年度 区分		昭和 年度	昭和 年度	昭和 年度
年度および学年 初めの幼児の年齢		昭和 年度	昭和 年度	昭和 年度	昭和 年度	昭和 年度
園長氏名印		学区				
学校担任者 氏名印		設置番号				
学籍の記録						
幼 児	氏名	男 女		入園年月日	昭和 年 月 日	
	本籍	年 月 日生		転入年月日	昭和 年 月 日	
保 護 者	氏名			転・退園年月日	昭和 年 月 日	
	職業	職業との関係		修了年月日	昭和 年 月 日	
現住所				進学先		
				家庭環境 社会環境 その他特記 すべき事項		
出欠の記録				健康の記録		
区分	年度	昭和 年度	昭和 年度	昭和 年度	昭和 年度	昭和 年度
教育日数						
出席停止・出席等 の日数						
出席しなければ ならない日数						
欠席日数						
出席日数						
標準検査等の記録						
備考				検査年月日	検査の名称・結果・検査者名等	

I 様式(裏)

指導の記録				
指導のねらい	評 定			指導上参考となる事項
	昭和 年度	昭和 年度	昭和 年度	
健 康	健康の習慣や態度を身につける	— — —	— — —	昭和 年度
	運動に興味をもち進んで行なう	— — —	— — —	
	安全の習慣や態度を身につける	— — —	— — —	
社 会	個人生活の習慣や態度を身につける	— — —	— — —	昭和 年度
	社会生活の習慣や態度を身につける	— — —	— — —	
	社会の事象に興味や関心をもつ	— — —	— — —	
自 然	動植物を愛護し、自然に親しむ	— — —	— — —	昭和 年度
	自然の事象などに興味や関心をもつ	— — —	— — —	
	日常生活に適応する技術を身につける	— — —	— — —	
言 語	数量・図形などに興味や関心をもつ	— — —	— — —	昭和 年度
	人の話を聞いてわかる	— — —	— — —	
	自分の思うことや経験を話す	— — —	— — —	
音 楽 リ ズ ム	日常生活のことは正しく使う	— — —	— — —	昭和 年度
	絵本や紙しばいなどに親しむ	— — —	— — —	
	喜んで歌ったり楽器をひいたりする	— — —	— — —	
絵 画 製 作	動きのリズムを楽しむ	— — —	— — —	昭和 年度
	音楽に楽しみ喜んで聞く	— — —	— — —	
	感じや考えを音や動きに表現する	— — —	— — —	
のびのびと絵をかいたりものを作ったりする	感じや考えをくふうして表現する	— — —	— — —	昭和 年度
	いろいろな材料や用具を使う	— — —	— — —	
	美しいものに興味や関心をもつ	— — —	— — —	

- (注) 1. 各項目の評定は、指導のねらいを達成していると思われるもの、おおむね指導のねらいを達成していると思われるもの、指導のねらいからみて特に指導を要すると認められるもの3段階とし、その段階の順にしたがって左端から右端に○印を付して表示すること。
2. 評定は、全項目にわたって行うことを原則とするが、幼児の発達段階等により、評定の困難なものは助けて評定することができる。
3. 指導上参考となる事項については、幼児の性格・行儀、情緒の傾向、習熟、才能等について、指導上特に参考となる事項および指導・処置を具体的に記入すること。

幼稚園幼児指導要録の様式の変遷

○平成12年3月8日「幼稚園幼児指導要録並びに盲学校、聾学校及び養護学校幼稚園幼児指導要録の改善について」(通知)別添資料1(様式の参考例)

幼稚園指導要録(学籍に関する記録)

年度 区分	平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成	年度	性別
	学 級							平成 年 月 日生	
整理番号									
幼稚園名 及び所在地	氏 名								
	現 住 所								
年度及び入園 (転入園)・進級 時の幼児の年齢	氏 名								
	現 住 所								
園 長 氏 名 印	平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成	年度	入園 前の 状況
	歳	か月	歳	か月	歳	か月	歳	か月	
学級担任者 氏 名 印	平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成	年度	進学 先等
	氏 名	印	氏 名	印	氏 名	印	氏 名	印	

(様式の参考例)

幼稚園幼児指導要録(指導に関する記録)

氏 名	平成	年 月 日 生	性 別	発達の状況 保健 精神 視覚 聴覚 言語	指導の重点等	平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成	年度
	氏 名	氏 名	氏 名			氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
健康	お ち ら い (発達を促せる視点)												
健康	明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。 自分の体を十分に動かして、進んで運動しようとする。 健康 安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。												
人間関係	幼稚園生活を楽しみ、自分の方で行動することの充実感を味わう。 進んで身近な人とかわわり、愛情や信頼をもつ。 社会生活における簡単な習慣や態度を身に付ける。												
環境	身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもち、身近な環境に自分からかわり、意見を言ったり、考えたり、それと関連して取り入れようとする。 身近な事象を捉え、伝えたり、書く中で、自分の気持ちや考えを表現する。												
言葉	自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。 人の言葉や態度をよく聞き、自分の目標したことや考えたとを話し、伝え合う喜びを味わう。 日常生活に必要な言葉が分かるようになることにも、日本語の面白さやリズムを楽しむ。												
表現	いろいろなもの楽しみなどに対する豊かな感性をもつ。 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。												
生活	生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。												
出欠の状況	教育日数	出席日数	欠席日数	欠席理由	備考								
注	発達の状況の欄は、各年の初めと比較して著しい進捗が見られたものに○印を記入すること。その際には、発達の状況は、他の幼児との比較や一定の基準に対する進捗についての評価によって記入するものではないことに留意すること。												

幼稚園幼児指導要録の様式の変遷

○ 平成 21 年 1 月 28 日 「幼稚園幼児指導要録の改善について」(通知) 別添資料 1 (様式の参考例)

別添資料 1
(様式の参考例)

幼稚園幼児指導要録(学籍に関する記録)

区分	平成 年度		平成 年度		平成 年度		平成 年度	
	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	
学 級								
整理番号								

幼 児	ふりがな 氏 名					性 別
	平成 年 月 日生					
	現住所					
保 護 者	ふりがな 氏 名					
	現住所					
入 園	平成 年 月 日	入園前の				
転入園	平成 年 月 日	状 況				
転・退園	平成 年 月 日	進学先等				
修 了	平成 年 月 日					
幼稚園名 及び所在地						
年度及び入園(転入園) ・進級時の幼児の年齢	平成 年度 歳 か月	平成 年度 歳 か月	平成 年度 歳 か月	平成 年度 歳 か月		
園 長 氏 名 印						
学級担任者 氏 名 印						

幼稚園幼児指導要録(指導に関する記録)

(様式の参考例)

氏 名	平成 年度		平成 年度		平成 年度		平成 年度	
	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	
性 別								
ねらい (発達を促せる視点)等								
健康								
人間関係								
環境								
言葉								
表現								
観察								
現 状								
出 欠 状 況								

学年の区分は、年度区分に、幼稚園に出づき品類の区別として設定したものを記入
 園長の署名：一年間を振り返って、当該幼児の指導について行なってきた点を記入
 学級担任者の署名：(2) 次の事項について記入すること。
 ① 1 年度の指導の進捗と生徒の発達について以下の事項を記入すること。
 ・当該幼児の指導要録 2 頁「ねらい及び内容」に示された各領域のねらいを観点として、当該幼児の発達の実績から向上が著しいと思われるもの、
 その際、他の幼児との比較や一定の領域に対する達成度についての状況によって述べらるるものではないことに留意すること。
 ・当該幼児の指導に資する条件、機能的に持った状況の発達。
 ② 次の年度の指導に必要と考えられる発達事項について記入すること。
 (3) 当該幼児の発達状況等向上に留意する必要がある場合等について記入すること。

幼稚園における記録の取り方の実際（幼稚園教育指導資料第5集より）

①名簿に書き込む記録

4月10日（木）

幼児名	幼児名	幼児名	幼児名	幼児名	幼児名
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

この記録は、
幼児の行動を
観察し、その
特徴を記述し、
その後の行動に
関係があるかを
検討する。

	A児	B児	C児	D児	E児
4月21日（月）	寝顔してとると、もも 用のままごととコーナ ーで遊び始める。もも 用の①の作ったアイ スクリームに興味を 示し、遊ぶ。ゆり船に 乗ってからは、F・G が遊んでいたレスト ランの席にHと一緒に 座っている。何となく 一緒にいることはあ るが、一緒に遊んで いるという感じでは ない。人影に興味を示 す。	アスレチックで遊ぶ。 高いところから飛び 降りようとしていた ので注意する。	積み木が他児に使 われていると、「積木 の積み木で作る」と 言い、積木を並べて ぬいぐるみを製作す る。後半、空き箱の 蓋を作り、積木を並 べる。	ままごととコーナ ーで折り紙を丸めた ので、草花の料理の 作り方を教える。が、 聞きかた。蓋し かたか。	菓子の空き箱をつな げて遊んで見立てて 遊ぶ。ただつなげた だけなので、もも イメージをもてるよ うに、一つ一つを揉 み込んで色を塗った り、タイヤを付けた りするなどの案を提 案していきたい。
4月22日（火） (略) (略) (略) (略) (略)
4月23日（水） (略) (略) (略) (略) (略)
4月24日（木）	教師と一緒に弁当を 作る。ビクニックに 行くなど、教師と関 わりが深くなる。教 師が自分の動きをま ねたりすることを見 ている。特に牛乳を 飲むという動きが気 に入っている。ブラン コの場から中庭に移 したことで1・3・5 も入って一緒に遊ぶ ことができた。教師 がかかりをもつこと によって幼児がか かりをもつようになる。		ジャングルジムでま まごとをして遊ぶ。 砂場の周りを走り 回す。①と同じよう に作るのではなく、 自分なりに切ったり 貼ったりしている。 終わると、砂場で今 度も川を作りたいと 言って自分で砂場を 掘り始める。それ を見て、E・Oも仲 良く入る。Dが裸足 になるのを尻目に なる。	領、①が提案して いたこのぼり作り に興味を示し、ひと まぜ取り箱である。 ①と同じように作る のではなく、自分な りに切ったり貼っ たりしている。終 わると、砂場で今 度も川を作りたい と言って自分で砂 場を掘り始める。 それを見て、E・ Oも仲良く入る。 Dが裸足になるの を尻目に。	Dが砂場で遊び始 めたのを見て、仲良 しく入ってくる。川 を作る。巧みでジャン プをしようとする。何 度も繰り返していた。
4月25日（金）	①の指導でこのぼり 作り始める。別の ①が引を離すと、遊 具の子にかかっ ている間に作るのを やめよう。自分で作 るのは難しかったよ うだ。			寝顔してからいつ ものレストラン作 りをする。自分 で教材室から道具 を持ってきて始め ようとする。積み 木をどんどん自分 で組んでいく。	寝顔してからすぐ このぼり作り始め る。
一週間を 通して	ままごととコーナ ー、教師、学生とい うことで安定して遊 んでいる。24日のビ クニックでは、製作 物の食材で自分な りに弁当を作るこ とを楽しんでい た。教師がみんな 見えるところであ かかわりをもつこ とで周囲の幼児も Aにかかわりをも つチャンスになっ ている。	Fたちと一緒に 行動することで安 定している。新しい 遊びにも慣れてき ていよう。どこか に行けば何がある かはだいたい分か つてきている。ア スレチックやグル ープジャングル、砂 場など戸外で遊ぶ ことが多く遊びも 楽しいので見違 えようになっている。	L・M・Nと一 緒にままごとと やおうちごっこ をしており、教師 がしている遊び に興味をもって かかわってくる。 教師の意図を 感じ取って行動 しようとする姿 も見られる。	前日の経験や、楽 しいと感じたこと を繰り返したり、 自分で遊ぶ場所 を作ったりして、 出中して遊びに 取り組んでいる。	牛乳パックをつな げて遊んで見立て て遊ぶことが多い。 長くつなぐことに 楽しみを見いだ している。一つ 一つの遊びにこ だわろうとしてい ない。家庭訪問か らも周囲にはか わりをもっている ようなので、少 しずつ手を加え ながら楽しみ 方に配慮してい きたい。

幼稚園における記録の取り方の実際（幼稚園教育指導資料第5集より）

②一定の枠組みを決めて書く記録

平成23年5月13日	2年保育4歳児	記録者（ ）
「たまご? うんち?」		
<p>事例</p> <p>教師は、子どもたちと一緒にアオムシの糞を見に行った。子どもたちが、アオムシの下に緑色の粒が落ちていっているのを見付け、「これはなんだろう?」「うんちじゃ」「たまごだと思う」「くさいからうんちだよ」「くさいたまごじゃない」「緑色だからたまごだよ」と、口々に自分の考えを言い合う。うんちとたまごの意見に分かれた。「これは何だろうね。たまごかな、うんちかな」と教師もどちらか分からないという答えをする①。</p> <p>「キャベツを食べている下に落ちていっているから、うんちだと思う」と見。「たまごだよ。ここから生まれて、上に登っていったんだよ」とH児。そんな話を聞かしながら、しばらくアオムシを観望していた。すると、アオムシのおしりから緑色の粒がポロっと落ちた。その瞬間を、H児は見ていた。教師とH児は目を見合わせた。「今の見た?」と教師が。「うん! おしりから、出てきた! これは、うんちだったんだ! 私 はたまごだと思っていたけど、追って! うんちだ!」とH児が興奮気味に話した。H児は笑顔で、とてもうれしそうだった。その後も、登園するとすぐにアオムシの糞を見に行く日がしばらく続いた。</p>	<p>指導内容</p> <p>①教師が分からないという立場を取ること、なお一帯、子どもたち同士で活発な意見が交わされるのではないかと期待した。 *興味や関心や理解を深める。</p> <p>②おしりから緑色の粒が出る瞬間を見ることができた喜びと興奮を分かち合いたいという気持ちだった。 *子どもの思いに共感する。 *喜びの仲間となって楽しむ。 *体験で得たものを共有する。</p>	
<p>(4歳児5月の指導計画より一部抜粋)</p> <p>指導のねらい</p> <p>○新鮮な美しさやそよぐ風の心地よさを味わい、身の回りの自然に親しみをもってかかわり大切にしようとする。</p> <p>○友達や教師とかかわって遊ぶ楽しさを味わう。</p> <p>指導内容</p> <p>○存分に身体を動かそうとしたり身の回りの自然に親しみをもってかかわったり大切にしようとする。</p> <p>・草花遊びや虫探しを楽しむながら、それらに愛情をもって大切にしようとするようになる。</p> <p>指導の内容や留意点</p> <p>○戸外で存分に身体を動かして遊ぶ楽しさを共に感じながら、身の回りの自然に親しみをもってかかわろうとしたり大切にしようとするよう援助する。</p> <p>・草花や虫の命を大切に考えられるように、一緒に活動する中で先生の思いや願いを伝えたり一緒に考えたりしていく。</p> <p>・サブキやシロツメクサなど、見て楽しんだり一緒に草花遊びなどをして遊んだりしながら、この時期の自然に親しめるようにする。</p>		
<p>考察</p> <p>最初に私が「うんちだよ」と子どもたちに教えていたら、この出来事はなかったと思う。本当は、もう少しで言いそうになった。しかし、このまま子どもたちはどうしていくのだろうという思いから、このときは言わずに経過を見守ることにした。</p> <p>H児は、アオムシの下に緑色の粒が落ちていることに気付いた。そして、粒のにおいや落ちている場所から、自分なりの仮説を立ててたまごだと考えていた。友達やうんちだという意見を聞いても、たまごという考えは変わらなかった。緑色の粒がおしりから落ちる瞬間を見たとき、H児はそれをうんちだと認識した。自分が考えていたのとは違う答えだ。しかし、自分の考えが覆されても、H児はその瞬間が見えた事を喜び、うんちだと分かったことがうれしそうだった。</p> <p>子どもたちと、新しい発見をした感動を共有することができた。また、緑の粒の形や色を見て、その正体を「こうだから、こう思う」と推論することや、そのことを友達に伝え議論することなどを、自分たちだけでしている子どもたちの力に驚いた。</p> <p>アオムシがいたキャベツは、前年度の月組の担任や子どもたちが育てたものである。新入園児が自然に目に向くようにとの願いが込められている。私は、去年畑の作物を育てた時にはここまで考えられなかった。まだ見ぬ子どもたちの成長を願って育てることの大切さをこの事例から学んだ。</p> <p>*感じ取ること：色、形、におい、不思議。 *働きかけること：観察する、比べる、話し合う。 *見付け出すこと：生感。</p>		

③日案に書き込む記録

	10月26日(水)		10月27日(木)
前日	8:00 登園 挨拶・身支度	26日の様子より	8:00 登園 挨拶・身支度
	9:10 園庭で遊ぶ ・リレー ・なわとび ・てつぼう ・たけうま		9:10 チャレンジタイム ・なわとび ・てつぼう ・たけうま
	9:40 音楽		9:30 片付け
	9:50 好きな遊び ・割りピン人形 ・製作 ・新聞紙、ドールハウス、どんぐり紙がし ・園庭で遊ぶ ・なわとび、てつぼう、たけうま、鬼ごび		9:40 音楽
	11:00 片付け		9:50 好きな遊び ・割りピン人形 ・製作 ・新聞紙、ドールハウス ・園庭で遊ぶ ・なわとび、てつぼう、たけうま、ラインドッジボール、鬼ごび
	11:15 ラインドッジボール		11:00 片付け
11:35 園庭準備	11:15 ラインドッジボール		
11:45 絵本「ともだちきとりや」	11:35 好きな遊び ・チャレンジタイム (なわとび、たけうま、てつぼう) につなげる記録 ○○に、空手道上がりのやり方を知らせると、すぐに体を揺らし、成功! 全員の前で練習すると、「すごい!」と何人からも言われるようになった。なわとびでは、○○、○○、○○が自分から、遊び方を同者に率先取り進む。 一瞬にして、朝、自分の目当てに向かって取り始める瞬間を作る。できるように変わった幼児は、変態に練習し、がんばりや、できたことを認められるようになる。	11:40 昼食準備	
12:00 登園	12:00 園庭	11:55 昼食 食体系み	
			12:30 好きな遊び 13:30 新聞紙組 13:40 絵本「ともだちきとりや」 14:00 帰園

